

海外(香港)と我が国の工学系女子学生の就業意識の比較

Comparison of Employment Awareness of Female Engineering Students Between Hong Kong and Japan

苫小牧高専環境都市工学科 正員 松尾優子 (Yuko Matsuo)
 苫小牧高専環境都市工学科 ○学生員 佐藤帆乃香 (Honoka Sato)
 苫小牧高専文系総合学科 松田奏保 (Kanaho Matsuda)

1. 研究背景

我が国は急速な少子高齢化により、今後生産人口が減少する中で女性の就業率引き上げが必須である。本研究は、女性進出度の高い海外(香港)の工学系女子学生と我が国の学生を対象にアンケート調査を行い、就労価値観や将来のキャリアプラン比較し、女性技術者の育成や就労継続における課題を把握することを目的とする。

2. 回答者の構成

アンケート調査は香港高等科技教育学院にご協力頂き建設工学科の学生(以下、香港(男女))計80名(内男子学生70名、女子学生10名)および苫小牧高専の環境都市工学科の女子学生(以下、高専女子)18名を対象に、直接配布・回収方式で実施した。

3. アンケート結果

アンケート結果の一部を図-1~図-8に示す。

図-1より、進路選択にあたり建設系分野を専攻した理由(複数回答・2つ選択)について尋ねたところ、「面白そうだから」という回答が最も多く、いずれの学生も3割程度あった。次に多い理由では、高専女子が「両親の勧め」であったのに対し、香港(男女)は「給料の良さ」があげられている。また、「親の勧め」と「教師や他の人からの勧め」は、高専女子はそれぞれ21.4%、10.7%おり、どちらも香港(男女)の回答の2倍程度であり、高専女子の方が進路選択にあたり他者からの影響を受ける割合が多いことがわかる。

卒業後に希望する職種(図-2)としては、双方の学生とも半数近くが「公務員」を希望していた。一方、「企業」への就職を希望する学生は、香港(男女)では50%、高専女子では35%であり、香港(男女)は公務員志望よりも企業を志望する学生が若干上回っている。

図-3は、仕事を選択する際に考慮すること(複数回答・2つ選択)を示している。高専女子に多かった回答は「労働条件」32%、「面白さ・やりがい」22%、「育児中の女性にとっても働きやすい環境」19%であったのに対し、香港(男女)は、「給料の良さ」を重視する回答が最も多く29%、続いて「自分の専攻関連」が17%であった。高専女子の回答で多かった「育児中の女性にとっても働きやすい環境」と回答した学生は皆無であった。一方で「自分の専攻関連」は高専女子が3%と極端に少ない。このことから、香港(男女)の方が専攻分野に対する関心度が高く、図-1の選考理由の結果でも示されるように、香港学生は興味や給料の良さから、将来専攻分野の技術者になるという目的意識が高専女子と比べて高い傾向にあることがわかる。この傾向の原因として仕事

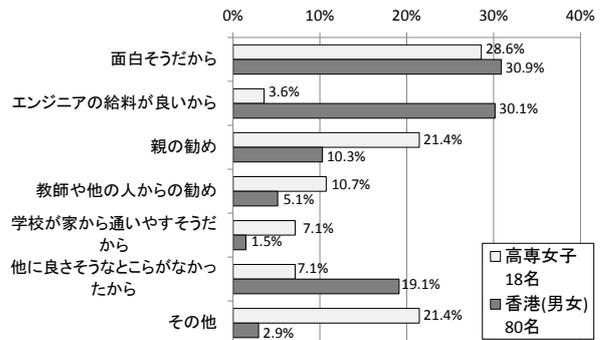


図-1 建設系分野の選考理由 (複数回答・2つ選択)

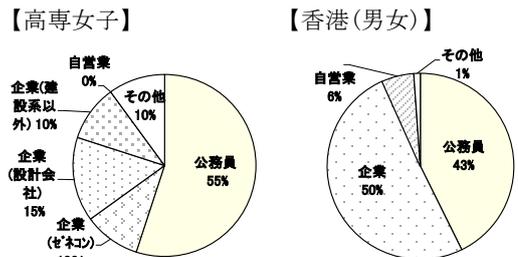


図-2 卒業後に希望する職種

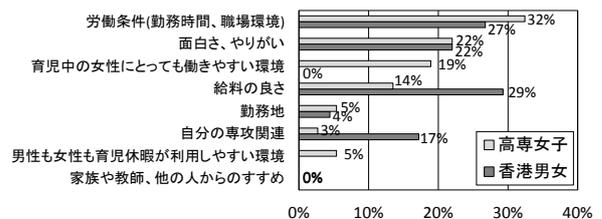


図-3 仕事を選択する際に考慮すること (複数回答・2つ選択)

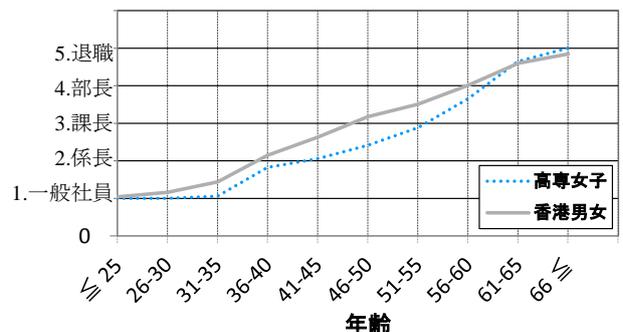


図-4 各年代における理想のキャリアプラン

選択(図-3)において「給料の良さ」をあげていることから香港における技術者の給料は一般的な水準より比較的高いためだと予想される。

次に理想のキャリアプランについて、25歳から66歳において一般社員・係長・課長・部長・退職の5段階で表してもらい、その結果の平均を図-4に示す。高専女子のキャリアプランは40歳前後で係長、50歳前半で課長、60歳前に部長となっており、香港(男女)は30歳後半で係長、40歳後半で課長、50歳後半で部長となっている。両者を比較すると、香港(男女)の方が高専女子より5歳ほど早い年齢での昇格を目標しており、昇進意欲が高いといえる。また、双方とも66歳以降は退職であった。

図-5に、将来希望するライフプランを示す。ライフプランは以下の5コースとし、女子学生には自身が希望するライフプラン、男子学生には配偶者などのパートナーに望むライフプランを選択してもらった。

1. 専業主婦コース：
結婚して、子供を持ち、仕事は退職する。
2. 再就職コース：
結婚して、子供を持ち、仕事は一時退職。
子供が大きくなったら再開する。
3. 両立コース：
結婚して、子供を持ち、仕事は継続する。
4. DINKSコース：
結婚して、子供を持たずに、仕事は継続する。
5. 非婚就業コース：
結婚はせずに、仕事は継続する。

その結果、いずれの学生も「3. 両立コース」が多く、高専女子は67%、香港女子は80%、香港男子も半数近くが支持している。

次に、図-5で回答した希望するライフプランの選択理由を図-6に示す。高専女子の最も多い回答が55%で「経済的に必要」だった。香港女子は「やりがい・生甲斐」が28%で最も多く、「経済的に必要」は「一般的である」と同じ23%で2番目に多い回答となった。一方、高専女子で「一般的である」ことをライフプラン選択の理由にした学生は一人もいなかった。これより、香港では結婚後も就業継続するのが一般的という認識があり、日本と比較すると結婚後の就業意識の違いが確認できる。また、「社会貢献したい」も香港(女子)は13%の該当があるが高専女子は0%だった。

次に高専女子のみを対象に希望勤務地(複数回答)、働くにあたって不安なこと(複数回答・3つ選択)について尋ね、その結果を図-7および図-8に示す。図-7の希望勤務地では札幌圏と実家から近い場所を含め北海道内の就職を希望しているのは13名で、勤務地を問わない及び東京圏を含む北海道外での就職を希望しているのは14名だった。このことから、北海道に残ることを希望する高専女子は全体の半数であることがわかる。図-8の不安なことでは最も多いのは「仕事をこなせるか」で、2番目に多いのは「結婚、出産後も継続できるか」、3番目は「長時間労働」「男女平等か」「勤務地」が並んだ。これは、高専女子は子育てと仕事の両立(両立コース)希望が67%であったことから、働くにあたって「長時間労働」「男女平等」「結婚出産後も継続できる職場」「給料」などの労働条件を気にしている学生が多い

と予想される。不安だと感じている学生が少なかったのは「女性の技術職員がいるか」(2%)と「希望部署への配属」(4%)だった。

4. まとめ

本稿の調査結果より、香港学生は男女ともに興味や給料の点から自分の専攻分野における技術者を目指しており、昇進意欲も高い傾向にある。また、結婚後の就業継続については一般的という認識がある。一方、高専女子も両立を希望する学生は多いものの、専攻分野より家庭と仕事が両立できる職場環境を重視している。この原因としては、選考に対する関心度の低さや技術職場では長時間労働等で家庭との両立が困難という意識が根付いていると考えられる。そのため、今後技術職を希望する女子学生の数の拡大にあたり、技術職場においても就労継続が可能であるという認識をしてもらうことが必要であり、事例紹介など、長期的なキャリアプランのイメージの提示が重要である。

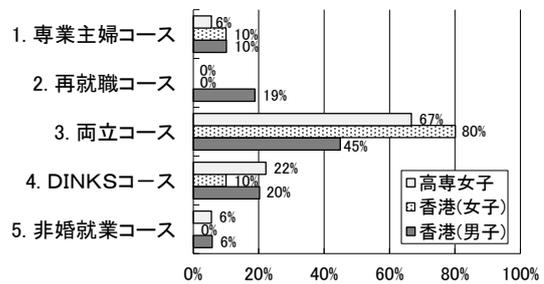


図-5 希望するライフプラン

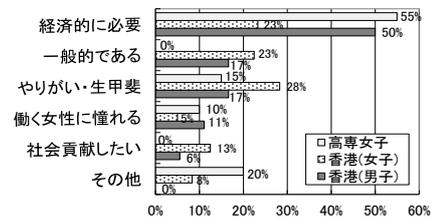


図-6 希望するライフプランの選択理由

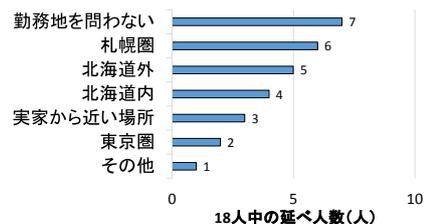


図-7 希望勤務地(複数回答)

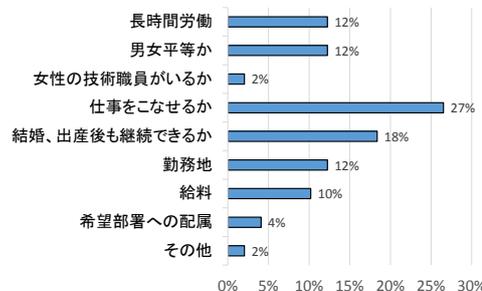


図-8 働くにあたって不安なこと(複数回答・3つ選択)

※本研究は JSPS 科研費 26870807 の助成をうけたものです。